

平成二十九年事業の概要

平成二十九年度「肥後医学塾」年間テーマ「最新医学と社会」を開催

常任理事(事業担当) 遠藤 文夫

県民一人ひとりが豊かで健康的な生活を送れることを目指して、(公財)肥後医学振興会、(一財)化学及血清療法研究所及び熊本日日新聞社の主催で、平成二十九年度も市民公開セミナー「肥後医学塾」を開催することになりました。「最新医学と社会」を年間テーマとしました。

近年、わが国の医学の進歩は著しいものがありますが、死因の第一位である「がん」は、年々増加傾向にあるのも事実です。中でも「肺がん」や女性の「乳がん」は死因の上位を占めており、これらに対する新たな治療法に期待が寄せられています。

そこで今年度は、「最新医学と社会」をテーマに、年間三回のセミナー(第六十一回〜第六十三回)を実施します。それぞれ「呼吸器医学」「乳がん」「歯科治療」を取り上げます。

第六十一回は、十月七日(土)にホテル熊本テルサにおいて、第二十七回国際喘息学会日本・北アジア部会と共催で「呼吸器病医療の進歩と社会」と題して、呼吸器病の中でも、肺がんは新しい治療

法として「がん免疫療法」が注目されるなどその治療法は大きく進歩しています。本セミナーでは、呼吸器疾患の専門医が日々進歩を続ける治療方法などを紹介し、また、たばこによる肺障害をなくしつつまでも快適な呼吸を維持できるための情報を提供していただきました。

約二五〇人の来場者があり、内容を、十一月三日の熊本日日新聞紙面に掲載しました。

第六十二回は、十月二十九日(日)にホテル日航熊本において、第二十五回日本乳癌学会学術総会と共催で「正しく知ろう乳がんのこと―診断から緩和ケアまで―」と題して、日本人の乳がん患者は年々増加傾向にあり、今では女性十一人に一人が生涯のうち乳がんを発症すると言われています。本セミナーでは、遺伝する乳がんのことから、大きく変化した乳がん治療、抗がん剤の副作用管理、緩和ケアについて紹介していただきました。

約三六〇人の来場者があり、内容を、十二月の熊本日日新聞紙面に掲載する予定です。

第六十三回は、二月四日(日)にホテル熊本テルサにおいて、「歯科治療と社会(仮題)」と題して、歯科疾患が悪化する血液の流れが悪化し、体内のさまざまな箇所が悪影響を与えます。中でも、口腔がん(口腔悪性腫瘍)が発症するリスクも高まり、治療の重要性が叫ばれて

います。本セミナーでは、口腔がんについて口腔外科専門医が最新の免疫療法などについて解説していただきます。

内容を、三月中旬の熊本日日新聞紙面に掲載する予定です。

今年度も昨年の熊本地震発生に伴う臨時の肥後医学塾を開催しました。四月二十三日(日)にくまもと県民交流館パレアにおいて、熊本地震血栓塞栓症予防プロジェクトと共催で「エコノミークラス症候群×災害時の命と健康を守るために」と題して、昨年の熊本地震発生後、エコノミークラス症候群を発症する人が続出し、その予防と啓発の必要性が取りざたされました。本セミナーでは災害時における血栓塞栓症について、医療専門家やタレント、マスコミそれぞれの立場からお話しいただきました。熊本地震の状況を振り返り、課題を明らかにすることで今後の啓発へとつなげることにいたしました。

約三〇〇人の来場者があり、内容を、五月三十一日の熊本日日新聞紙面に掲載しました。

総合生活情報紙「あれんじ」の健康・医学・医療・学術記事の執筆・監修

副理事長 山本 哲郎

本年度も、熊本日日新聞社発行の総合情報紙「あれんじ」(タブロイド判十六頁三十五万部発行)の第一土曜日分の十面と十一面の見開き二頁について執筆・

監修を担当いたします。昨年度と同様にメインの記事として「元気の処方箋」(最新の医学医療記事)を毎月掲載いたします。また、「子育て応援クリニック」(小児科関連の医学医療記事)(十面)も、読者からの希望が多いとのことで、毎号の掲載といたします。「慈愛の心・医心伝心」(女性医療人によるリレーエッセイ)(十一面)はこれまで通り八回(五、六、八、九、十一、十二、二、三月)掲載いたします。「四季の風」(季節の新作俳句)は、これまで同様四回(四、七、十、一月)掲載いたします。なお、これまでは山本が主たる作業を担当してきましたが、本年度からは松下庶務担当理事も作業に参加いたします。

本年度も、「あれんじ」に掲載後全ての記事を「肥後医学振興会」のホームページに転載し、どなたでも自由に読めるようにすることにしております。

「第八回熊本県医療人育成総合会議」の開催予定

常任理事(事業担当) 遠藤 文夫

テーマ「地域包括ケアシステムと医療人育成」

少子高齢社会の到来によって、医療に対する社会的要請は救急医療、高度医療などの疾患の治療を目指すことに加えて長寿社会における健康の増進と生活の質(QOL)の維持・向上へと拡大しつつあります。医療の範囲は長寿社会におけ